

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道180号 <small>（そうじゃ いちのみや）</small> 総社・一宮バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：岡山県岡山市北区櫛津 至：岡山県総社市井尻野	延長	15.9 km		
事業概要 一般国道180号は、岡山市から松江市へ至る延長約170kmの主要幹線道路である。 総社・一宮バイパスは、岡山市北西部・総社市における一般国道180号の混雑緩和・交通安全の確保および沿線環境の改善等を目的とした、延長15.9kmの道路である。					
S48年度事業化		S63年度都市計画決定		H元年度用地着手	
H元年度工事着手					
全体事業費	約530億円	事業進捗率 (H22年度末現在)	22%	供用済延長	3.4 km
計画交通量	15,600 ~ 44,500 台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (3便益) (事業全体) 2.8 (残事業) 4.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 311 / 508 億円 (事業費：263/447億円) (維持管理費：48/60億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,410/1,418億円 (走行時間短縮便益：1,181/1,205億円) (走行費用減少便益：140/124億円) (交通事故減少便益：89/89億円)	基準年 平成23年	
感度分析の結果 (全体事業) 交通量：B/C=2.5~3.2 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.9~4.9 (交通量±10%) 事業費：B/C=2.7~2.9 (事業費±10%) 事業費：B/C=4.2~5.0 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.4~3.3 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=4.1~5.0 (事業期間±20%)					
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる ・混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在【岡山駅-稲荷山・芳賀佐山団地北】 ・高梁市から岡山駅（新幹線駅）、岡山空港（第三種空港）へのアクセスが向上 ②物流効率化の支援 ・高梁市から岡山港（重要港湾）へのアクセスが向上 ③国土・地域ネットワークの構築 ・日常活動圏の中心都市へのアクセスが向上 ④個性ある地域の形成 ・吉備路・備中国分寺（H21年間観光入込客数50万人）、総社・宝福寺（同21万人）へのアクセスが向上 ⑤安全な生活環境の確保 ・死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間において、安全性の向上が期待できる 【井尻野交差点：1,444.2件/億台キロ 等】 ⑥災害への備え ・岡山県の第1次緊急輸送道路に指定（一般国道180号） ・緊急輸送道路である一般国道180号が通行止めになった場合の代替路線を形成 ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる					

関係する地方公共団体等の意見

岡山市北西部・総社市中心部への通過交通流入が抑制され、交通の円滑化が図られるとともに沿道環境が改善し、市民生活の快適化と中心市街地の活性化が期待されており、岡山市をはじめとする関係4市の首長等で構成される一般国道180号岡山県整備推進期成会より早期整備の要望を受けている。

岡山県知事の意見：

継続するとの対応方針（原案）については異存ありません。

事業着手から長時間が経過しており、総社市や岡山市西部における交通渋滞の緩和や沿線地域の活性化に支障が生じないように、本事業の早期完成を強く求める。

岡山市長の意見：

意義ありません。

なお、広域的な交流や渋滞緩和を図るための重要な道路であり、引き続き整備の促進をお願いします。

特に、一般国道180号総社・一宮バイパスにおいては、岡山市北区櫛津から山陽自動車道接続までの区間について、事業促進による早期供用を要望します。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。

審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

なお、審議過程において、不適切な点又は改善すべき点等の意見は無かった。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

団地開発、県立大学設立並びに山陽自動車道や中国横断自動車道の開通などによる交通量の増加により、慢性的な交通混雑や交通事故が発生している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成22年度末で用地買収は31%完了しており、現在までに岡山市門前～総社市総社までの3.4kmが供用済みである。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、平成27年度に岡山市北区櫛津～一宮山崎間の供用を予定している。

施設の構造や工法の変更等

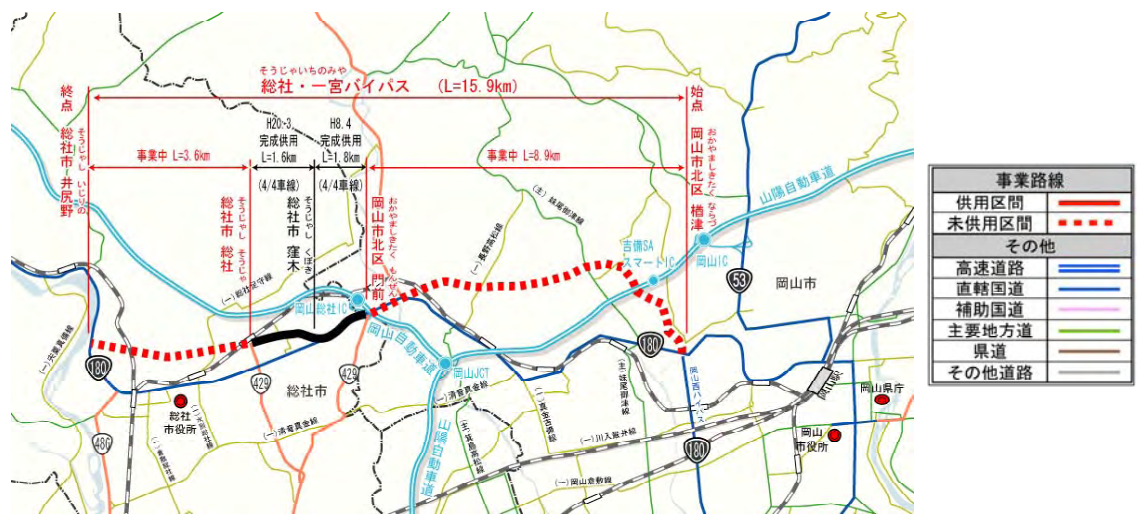
今後の実施にあたっては、コスト縮減を図りつつ事業を推進していく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。